

## 平城宮跡・藤原宮跡の整備

平城宮跡発掘調査部・飛鳥・藤原宮跡発掘調査部・庶務部

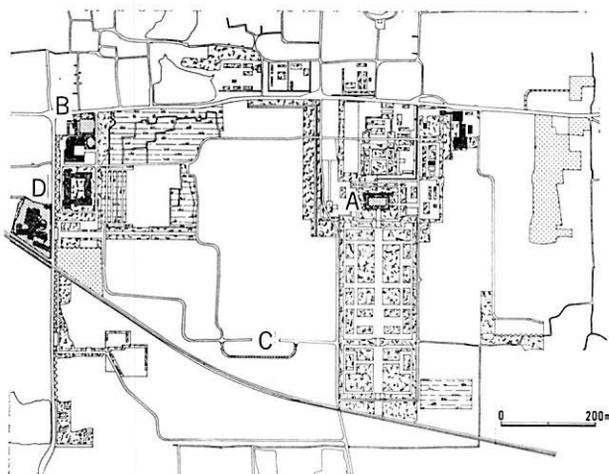
### 1. 平城宮跡の整備 (11)

1980年度の宮跡整備は、推定第2次大極殿基壇復原整備、平城宮跡資料館周辺整備、仮設道路の造成、平城宮跡資料館展示室の改修および庁舎周辺整備をおこなった。

**推定第2次大極殿基壇復原整備** 第113次発掘調査で確認された大極殿基壇の復原整備をおこなった。大極殿は凝灰岩壇正積基壇を持つ礎石建物で、桁行9間、梁行4間の四面廂付の東西棟であった。基壇石は北面で2個の地覆石を検出しただけであるが、特に基壇北面で地覆石の顕著な抜取痕跡を確認している。基壇には南北面に各3ヶ所、東西面に各1ヶ所の階段が取り付け、北面中央階段には大極殿後殿に連なる軒廊基壇が取り付けいていた。

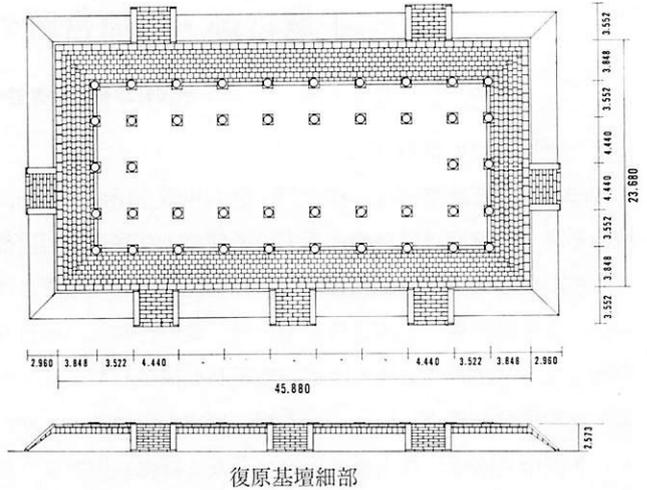
基壇の復原に際しては、残存状態の良好な基壇築成土上部を保護するため、周囲にコンクリートの擁壁をめぐらせた。これは表面の化粧石積みを貼り付けるベースの役割も備えている。基壇計画高は、大極殿北側で既に整備を終えている内裏回廊基壇と相対の高さを合わせて、奈良時代地盤高より+60cmと決めた。基壇規模は、29.6cmを基準尺として、身舎を15尺(4.44m)等間、廂の出を12尺(3.552m)、側柱心からの基壇の出を13尺(3.848m)にとり、全幅東西45.88m、南北23.68mに計画した。壇正積基壇の復原は、内裏回廊基壇や東院南面門基壇と同じ工法を採り、鉄筋コンクリート擁壁にステンレス棒(φ9mm)およびモルタルを用い凝灰岩切石を貼り付けた。これより下部にある基壇築成土は、盛土張芝によって遺構保存をはかった。その結果、壇正積基壇は葛石(厚さ30cm)と羽目石および東石の一部(高さ60cmまで)の復原となったが、階段は調査結果にもとずき、南面の3ヶ所、東西面の各1ヶ所、北面の2ヶ所について、段石、耳石で往時の基壇高を表示した。なお北面中央の階段は、1981年度に発掘する予定の後殿の調査結果をまつことにし、今回は整備しなかった。基壇上面は、検出した残片に類似した礎石(愛知県西加茂郡藤岡町産:96×96×40cm、柱座径90cm)を44個据え付け、側柱心から基壇端までの部分を凝灰岩石敷とし、内側の身舎部分は張芝とした。

なお、コンクリート擁壁を設計するにあたり、擁壁基底部支持地盤および盛土材の土質調査を実施した。調査はスウェーデン式サウ



平城宮跡の整備位置図

ンディング試験とブロックサンプル採取によるもので比重、含水量、粒度、液性限界、塑性、単位体積重量、三軸圧縮についておこない、あわせて突き固め試験等も実施した。その結果、土質試験から $7.7 \text{ t/m}^2$ 、原位置試験から $2.1 \text{ t/m}^2$ 、盛土材の試験から $19.7 \text{ t/m}^2$ という許容支持力度の計測値をえた。これにより、設計した復原基壇の転倒、支持力および滑動に対する



安定が確認できた。また基礎構造の選択では、地盤の許容支持力度が $8.37 \text{ t/m}^2$ という計算値にもとずき、コンクリート擁壁基底部下に、新規搬入盛土材で締固めをすることに決定した。

基壇周辺の整備は、1964年度におこなわれた仮整備面と今回の整備面との間に高さに差が生じたため、階段下外周部に幅3mの碎石敷苑路を設け、その外側から勾配を持たせて旧整備面にすり付け、通路部分には敷石を、その他の部分には張芝をおこなった。(位置図A)

**資料館周辺整備** 平城宮跡および資料館への見学者の増加にともなって、駐車場や便所が不足して来たことや、資料館北西部に残っていた民地の一部が1979年度に買収出来たことなどから、資料館北側に駐車場約 $760 \text{ m}^2$ を造成し、駐車場西側に見学者用の便所( $68.6 \text{ m}^2$  男大4穴小6穴、女8穴、内男女共各1穴身障者用)を建設した。便所は鉄筋造、デッキプレート葺で、コンクリートブロック壁にモルタル塗りのうえ、リシン吹付け仕上げとし、既存の資料館や収蔵庫とデザイン的な統一を考慮した。駐車場の南側には見学者用広場(芝目地コンクリート平板舗装約 $260 \text{ m}^2$ )を設け、宮跡説明や集解散の場とした。これら見学者用の施設と収蔵庫等既存の調査研究・管理施設とを区画し、同時に一帯の修景を目的として、両者の間にアラカシの生垣や灌木等の植栽をおこなった。(位置図B)

**仮設道路造成** 1979年度に第119次調査としておこなった第一次朝堂院南門の発掘に際し、旧畦畔を拡幅して南面築地を復原する形で整備していた道路を撤去した。しかし発掘の結果、ここには門とそれに取り付く掘立柱柵が確認されたので、この道路の復旧は、道路が門基壇上を横断することを避け、基壇外縁にそって南へ迂廻させ造成した。幅員4mの碎石道路で、法面は張芝とした。(位置図C)



駐車場西側の便所

**平城宮資料館展示室改修** 1980年4月に庁舎の移転統合を実施し、平城宮資料館内の研究室は空部屋となった。そこで資料館展示の充実をはかるため、旧研究室の一部を展示室に改修した。改修は、屋根や外壁等の外観は鉄部塗装の更新にとどめ、内部は各研究室間仕切壁を撤去し、展示の他に講演等にも使用可能な空間として、一室(16m×24m)に改めたものである。



庁舎周辺整備状況

**庁舎周辺整備** 本研究所が移転した奈良市二条町の新庁舎の外構工事をおこなった。庁舎正面東側の県道沿いは、既に整備している平城宮の西境界土塁に合わせて凝灰岩切石積土塁とし、土塁上端に灌木を植栽した。又庁舎北部敷地内で、花崗岩板石(旧軌道用敷石)を用い、平城京西一坊大路西側溝を表示した。その他庁舎西側の民地境界はコンクリートブロック塀を設け、外周部に樹木植栽をおこなった。なお庁舎周辺については建設省近畿地方建設局への委任工事として、車庫(鉄骨造、デッキプレート葺, 84 m<sup>2</sup>)、プレハブ棟(93 m<sup>2</sup>)、渡り廊下(44 m<sup>2</sup>)、自転車置場(16 m<sup>2</sup>)を設けた。(位置図D)

	大極殿基壇整備	資料館周辺整備	仮設道路	資料館改修工事	庁舎周辺整備
規模	3,900 m <sup>2</sup>	3,820 m <sup>2</sup>	2,700 m <sup>2</sup>	384 m <sup>2</sup>	6,322 m <sup>2</sup>
工費(千円)	88,662	47,800	9,200	45,200	46,000

## 2. 藤原宮跡の整備(5)

1980年度に藤原宮では、大極殿南前面地区約4,370 m<sup>2</sup>を整備した。これまで藤原宮では大極殿周辺の整備を進めており、大極殿南方を除く三方の整備が完了している。大極殿は現在、上面に樹木が生え、土壇状に残るが、その規模は明確でない。そこで整備にあたっては、現段階の資料で推定できる範囲内で、大極殿基壇の南面および西面線を、凝灰岩緑石で表示するにとどめた。その他、東西の回廊に囲まれた大極殿前面一帯に砂利敷を行った。(渡辺 康史)



藤原宮大極殿の整備